

どれが届くかお楽しみ / 一宮大地の桃 品種一覧

※この表にある品種でも、収穫の量やタイミングによって桃七会でお届けできないものが含まれる可能性があります。

6月下旬～7月上旬

日川白鳳 ひかわはくほう

果皮が全面赤色に着色する。繊維が少なく、とろけるような食感。多果汁でさっぱりとした甘さ。中で種が割れる「核割れ」が起きやすい品種です。

6月下旬～7月上旬

さくひめ

温暖化により冬の気温が高くても、開花して実がなるように育種された早生の品種。日川白鳳同様、繊維の少ない滑らかな食感でさっぱりとした甘さ。

6月下旬～7月上旬

夏雄美 なつゆうび

「暁星」の枝変わりを選抜し、2012年に品種登録した早生品種。果汁豊富で酸味が弱く、早生品種の中では甘い。果肉がかためなのでお好みで追熟を。

6月下旬～7月上旬

昂紀 こうき

極晩生種の「みさかつ娘」の枝変わりから2013年に品種登録された早生品種。果肉は繊維が少なく、多果汁でジュシー。さっぱりとした甘さ。

6月下旬～7月上旬

赤宝 せきほう

長野県で「あかつき」の一樹変異(樹全体の突然変異)として発見された早生品種。色づきが良く、少し酸味を感じる。熟度によっては果肉に紅が差すことがある。

7月上旬

みさか白鳳 みさかはくほう

「白鳳」の枝変わりとして発見され、山梨県の旧御坂町で1989年に品種登録された。果肉はやや繊維質ながら、滑らかな食感と果汁の多さ、香りの良さが特徴。

7月上旬

加納岩白桃 かのういわはくとう

「浅間白桃」の早生枝変わり品種で、品種登録は1983年。果肉はやわらかくとろけるような食感で甘みもあり、中心がぼかし状に赤く着色。軟化しやすくアタリが出やすい。

7月上旬

夏かんろ なつかんろ

「白桃」と「白鳳」から生まれた「あかつき」の早生系統を選抜した品種。福島生まれ。果肉は緻密で少しかため。甘さと酸味のバランスがよく、果汁も豊富。

7月上旬

夢しずく ゆめしずく

「白鳳」の前に収穫できる食味、栽培性に優れる。品種登録は2004年。繊維や酸味が少なく、緻密な果肉で果汁が豊富。果肉に若干紅が混じり、年により若干渋みを感じることもあります。

7月上旬

夢桃香 ゆめとうか ※追熟推奨

「日川白鳳」の核割れ問題解決のため山梨県が開発。2022年から出荷り始めた。果汁も多く甘みもあるが、果肉がかためのため、好みのやわらかさまで追熟させるのがおすすめ。

7月上旬

友黄 ともき

※黄桃

福島県で「黄金桃」の枝変わりとして発見、2008年に品種登録された早生の黄桃品種。果汁が多く甘みの中に適度な酸味も感じられる。熟度が進むと黄桃独特の香りが強まる。

7月上旬～7月中旬

早生白鳳 わせはくほう

「白鳳」の早生枝変わり品種を総称して「早生白鳳」としている。特徴は「白鳳」とほぼ同じで、収穫時期は1週間ほど早い。

7月中旬

米倉金桃 よねぐらきんとう ※黄桃

スイートネクタリン「黎明」の枝変わり早生品種。品種登録は1991年。薄黄色の果肉で繊維が少なく、滑らかな食感で果汁も多い。渋みが少なく、甘さが際立つ。核割れしやすい品種。

7月中旬

夢あさま ゆめあさま

「浅間白桃」の枝変わりとして発見され、2002年に品種登録。果肉は緻密でやや繊維質ながら、食感もよく果汁も多い。甘さの中にやや酸味が感じられる。年により、果肉障害が出やすいことがある。

7月中旬～7月下旬

あかつき

「白桃」と「白鳳」から生まれ、1979年に品種登録された。美味しい桃の代表品種とも言われ、栽培面積の広さは日本の栽培品種でトップクラス。果肉は緻密で少しかため。

7月中旬～7月下旬

白鳳 はくほう

1925年に「白桃」と「橘早生」の交配により生まれ、1933年(昭和8)に「白鳳」と命名。滴り落ちる果汁ととろけるような食感、強い桃の香りが特徴。美味しい桃の代表格です。

7月中旬～7月下旬

夢みずき ゆめみずき

梅雨時期でもおいしく、色づきの良い桃として、また「夢しずく」と「白鳳」の間に出荷できる品種として開発。皮に近い側の果肉に紅が差す。「白鳳」「夢しずく」より甘く、酸味も少ない傾向。

7月中旬～7月下旬

滝の沢ゴールド ※黄桃

長野県で「黄金桃」の枝変わりとして発見された。品種登録は1992年。ややかための果肉はねっとりとした食感。酸味と甘さのバランスがよく、かじるたびに滴るほど果汁が多い。

7月中旬～7月下旬

美郷 みさと

山梨県で「日川白鳳」と「だて白桃」の混植園で偶発実生から発見、育成された品種。品種登録は2017。大玉傾向で果汁もたっぷりな甘い桃。果肉は繊維質でかため。

7月中旬～7月下旬

嶺鳳 れいほう

山梨県で発見された「あかつき」の枝変わり品種。1984年に発表されたが、農林水産省には未登録。弾力がありややかための果肉。種の周りが少し赤くなる。桃らしい芳醇な香りが魅力。

7月中旬～8月上旬

なつっこ

長野県が「川中島白桃」×「あかつき」を交配して育成、2000年に登録した品種。少しかための果肉で、皮は包丁で剥くのがおすすめ。なめらかな口あたりで甘みが強く、濃厚な味わい。

7月中旬～8月上旬

浅間白桃 あさまはくとう

旧一宮町で「高陽白桃」の枝変わりとして発見され、品種で1974年に命名された品種。香り高くジュシーで、甘さもあるバランスのとれた品種。

7月下旬

なつおとめ

「あかつき」に「よしひめ」を交配した中生品種。緻密な果肉はやや繊維質が多く、種の周りや果肉に紅が差す。甘さが強く、酸味は少ない食味の良い品種。皮は包丁でむくのがおすすめ。

7月下旬

黄美娘 きみこ ※黄桃

山梨県笛吹市で突然変異で生まれた黄色い桃。黄色の果肉は緻密で、熟度が増すとしっとり、とろけるような食感に。マンゴーを彷彿させる味という声も。

紅博桃 べにはくとう

福島県で「あかつき」の枝変わりとして発見され、1990年に登録された。「あかつき」より収穫期が1週間ほど遅い。甘みが強く、さわやかな酸味もあります。種の周りと果肉にも紅が差す品種。

7月下旬

紅くにか べにくにか

長野県で発見された「紅錦香くにか」の早生枝変わり品種。果肉は緻密でしっかりしているが、繊維質は少なめで食感はややめらか。果汁も多く甘い品種。

7月下旬～8月上旬

川中島白桃 かわなかじまはくとう

8月に収穫される晩生の桃の代表格。全国規模では「あかつき」「白鳳」に続く栽培面積。実は大きめで果肉が白く、少しかため。酸味が少なく、ジューシーな甘い桃。お好みに応じて追熟を。

8月上旬～8月下旬

浅間2号 あさまにごう

浅間白桃の枝変わり生まれ、一宮町下矢作で育成された晩生の品種。花粉がないので、人工授粉で受精させる。糖度が高く、果肉は弾力のあるゴム質。

8月上旬～8月中旬

夕月 ゆうづき

※黄桃

山形県で「ゆうぞら」と「まなみ」の交配から選抜育種された黄桃。果肉は濃黄色で果肉はややゴム質で弾力があり、緻密で多汁。甘が強く、酸味はほとんどありません。

8月中旬

さくら白桃 さくらはくとう

◎追熟推奨

「川中島白桃」と「千曲」を交配して選抜育成された晩生品種。甘味が強く酸味は弱め。果汁は少なめで、カリッと硬い果肉の歯ざわりが特徴。追熟させるとやわらかくなる。

8月中旬～9月中旬

黄らのきわみ きらのきわみ

※黄桃

福島県で「川中島白桃」と「ゆうぞら」の交配から生まれた晩生種の黄桃。大玉傾向で香り高く、果汁が多い。強い甘みと適度な酸味のバランスで、桃とマンゴーを合わせたような風味とも言われる。

8月下旬～9月中旬

甲斐黄桃 かいきいとう

※黄桃

黄桃の中でも非常に遅い時期に収穫される品種。収穫直後はかための果肉で果汁も多くないが、追熟するとトロピカルな香りが増してねっとりとした食感と濃厚な味を楽しめる。

9月中旬～9月下旬

つきかがみ

※黄桃

「黄金桃」に続く晩生の黄桃として農研機構により育成された品種。2011年に品種登録。味も食感も良く、今後が期待されている品種。

お届け履歴なし

池田白鳳 いけだはくほう

大地を守る会では生産者の岩間崇さんだけが栽培している品種。来歴は不明だが「川中島白鳳」から選抜されたものともいわれる。果肉は比較的なめらかな口当たりで、さっぱりとした甘さがあり、酸味は少ない品種。

7月下旬

まどか

◎追熟推奨

「あかつき」から選抜育成された品種。甘みが強く果汁も多いが、「あかつき」よりも歯ざわりはかため。お好みのやわらかさになるまで追熟するのがおすすめ。

7月下旬～8月上旬

ゆめしらね

「浅間白桃」の枝変わり品種で、1995年に品種登録された。「浅間白桃」より収穫時期が遅く、大玉傾向。香りや食味の良さなどは「浅間白桃」ゆずりのおいしい桃。

8月上旬～8月中旬

黄金桃 おうごんとう

※黄桃

果皮・果肉ともに黄色の桃。長野県で「川中島白桃」の偶発実生として発見・育成された。適度な酸味もあり、トロピカルフルーツを彷彿とさせる味わい。熟すと香りが強くなり、とろけるような食感に。

8月上旬～8月下旬

黄貴妃 おうきひ

※黄桃

福島県で「ゆうぞら」の自然交雑実生から育成された晩生種で、登録は1997年。果肉は淡黄色で収穫直後はかたいが、その後果汁が多くなり、桃とマンゴーを合わせたような風味とも言われる。

8月中旬～8月下旬

幸茜 さちあかね

◎追熟推奨

山梨県で発見された「山一白桃」の枝わりを選抜育成、2002年に品種登録された晩生種。甘さと酸味のバランスが良く、果肉はかためで、種の周りは赤くなる。追熟させるとやわらかくなる。

8月中旬～9月中旬

西王母 せいおうぼ

◎追熟推奨

「川中島白桃」と「ゆうぞら」の交配から生まれた晩生種。大玉傾向で香りは控えめ、濃厚な甘みと適度な酸味を持つ品種。果肉はかためで、追熟すると、きめ細かな口当たりと豊富な果汁を楽しめる。

9月上旬～9月中旬

エンパイヤ

※ネクタリン

晩生種のネクタリンで大玉傾向。肉質は緻密でややかためながら、果汁が多く、甘みと酸味のバランスがとれた濃厚な味わいが魅力。「黄金桃」のような風味とも言われる。

9月中旬～10月上旬

きらら姫 きららひめ

福島県で「西野白桃」の自然交雑実生の中から育成され、2005年に品種登録。小ぶりながら、果汁が多く甘みもあり、ナッツを思わせる独特の香りがある。

7月下旬～8月上旬

一宮白桃 いちのみやはくとう

旧一宮町で生まれた白桃の優良系統だが、交配親などの詳細な来歴は不明。上品な香りと、とろける甘さが人気。栽培の難しさから、最近は栽培面積が徐々に減少している。

8月上旬～8月中旬

一宮水蜜 いちのみやすいみつ

旧一宮町で発見された「浅間白桃」の枝わりの中生品種。品種登録は1990年。大玉傾向で、果汁が多く甘みが強いなど「水蜜」の名が示す通りの特徴を持つ。果肉は緻密で少しかため。

8月上旬～8月中旬

ゆうぞら

「白桃」と「あかつき」の交雑実生の晩生種。「白桃」よりやや小ぶりで、種の周囲が赤くなる。果肉はなめらかで少しかため。年により少し渋みを感じることがある。包丁で皮を剥くのがおすすめ。

8月中旬

玉うさぎ たまうさぎ

◎追熟推奨

山形県で「川中島白桃」と「ゆうぞら」の交配から選抜育種して2009年に品種登録された晩生種。果皮全体が赤く色づき、種の周りの果肉も赤くなる。食感のかためで、甘みが強く酸味は弱い。

8月中旬～8月下旬

甘甘燦燦 あまあまさんさん

福島県で「川中島白桃」と「ゆうぞら」の交配から生まれた晩生種の桃で、品種登録は2008年。果汁が多く、緻密でねっとりとした食感と強い甘みが特徴。種の周りは赤くなる。

8月下旬～9月上旬

ゆめかおり

「西野白桃」の自然交雑実生から育成された晩生種。特徴は果実がとても大きくなること。程よい甘みと適度な酸味があり、種の周りの果肉が赤くなる。追熟すると、食感のもっちり、果汁が多く濃厚な味わいが楽しめる。

9月上旬～10月上旬

紅錦香 くにか

長野県で「野池白桃」の枝変わりとして発見され、1990年に品種登録された品種。果肉は白く少しかためだが、果汁が多く、酸味の少ない甘い桃。お好みに応じて追熟するのがおすすめ。

お届け履歴なし



桃の味わい分布図

一宮大地監修

一宮大地が育てている桃の品種を分類してみました。

桃の甘さは収穫前の天候に大きく左右されます。圃場の場所や樹上のどこで育っていたかなども食味に影響するため、必ずしもこの表の相関関係と一致するとは限りませんが、参考にしながらお届けした品種をお楽しみいただけますと幸いです。

